



活動を支える、人、モノ、こと「募集して」

選手をサポートしながらパラスポーツを楽しもう

仙台市を拠点に活動する車椅子ソフトボールチーム「宮城ファイティング・スピリッツ」では、練習をサポートするボランティアを募集しています。活動内容はボール拾いや会場設営のほか、SNS用に、写真や動画で練習風景を記録するなど様々です。車椅子に乗って一緒にプレーを楽しむこともできます。監督の遠藤貴紀さんは、「障がいの有無や年齢などに関わらず楽しめるパラスポーツだからこそ、色々な人たちと出会えるのが魅力です。身体を動かしたり、写真や動画を撮ったり、得意なことを活かしながら、それぞれのペースで関わっていただけます」と、参加を呼び掛けています。



▲選手もボランティアも全員でひとつのチームです

募集概要

●対象

経験問わず、誰でも参加可能

●活動日時

月2～3回程度、土日祝のいずれかの午前・午後

●活動場所

仙石コミュニティ広場（宮城野区仙石4）

宮城県障害者総合体育センター（宮城野区幸町4-6-1）

※活動日時と場所は都度要確認

宮城ファイティング・スピリッツ



▲HP



活動に役立つ書籍を紹介「お役立ち本」

新・学生のためのボランティア論

本書は、大学の教員やNPO職員など16人の執筆者が、ボランティアが必要とされる社会背景やボランティア活動の楽しさ・奥深さを学生に伝える本です。ボランティア活動について理解を深められるだけでなく、学生にとってボランティア活動が自身の経験や得意なことを活かす機会になることを紹介。例えば、子どもと接するボランティア活動では、学生は「お兄さん」「お姉さん」として、子どもの身近な相談相手や、ロールモデルになり得ます。また、高齢者向けスマホ教室のボランティアのように、得意なこと地域と関わるができる事例なども掲載されています。ボランティア活動への参加イメージが膨らむ一冊です。

編者 赤澤清孝・川中大輔・野尻紀恵

発行所 社会福祉法人大阪ボランティア協会



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 9月9日（水）、24日（木）

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日（祝日の場合は翌日木曜日）年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

〔ホームページ〕<https://sapo-sen.jp>〔サポセンブログ@仙台〕<https://blog.canpan.info/fukkou/>「ぱれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。

ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター
（指定管理者：特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター）

発行日 2026年9月1日

デザイン PEACE Inc.

〔X〕

@SCSC4CA



〔YouTube〕

サポセンちゃんねる



ぱれっと 9

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

特集

「行ってみたい!」と思える
防災イベントで地域のつながりを育む

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）にいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

のべ300人が来場し、終日にぎわいを見せました

市民活動団体を紹介
「市民活動突撃レポート!」若者の表現を発信できる場を
仙台につくりたい

2026年6月、仙台市市民活動サポートセンターの市民活動シアターで、若者が古着やハンドメイド作品、アート作品などを販売するフリーマーケットが開催されました。当日は15組が出店。主催したのは、ファッションやアートを通して若者が自分らしさを表現できる場づくりを目指している「^{シンパ}Sympa!!!」です。市内に暮らす学生や美容師、古着店のスタッフなど、ファッションが好きな20代がメンバーとして参加しています。

活動のきっかけは、代表の猪苗代風太さんが仕事などを通じて、個性的なファッションを楽しむ若者や、創作・表現活動に取り組む同世代と出会い、刺激を受けたことです。「もっと彼らが注目される場をつくりたい」と感じ、同じ思いを持つ仲間たちと2025年10月に団体を立ち上げました。フリーマーケット開催にあたっては、メンバーが「一緒にイベントをつくりたい」と思う人に声をかけ、ポップ、カジュアル、モードなど様々なファッションスタイルの出店者を集めました。大切にしているのは、互いの個性や表現に触れ、新たな刺激やつながりが生まれる空間づくりです。街を歩く若者のファッションを紹介するショート動画を上映したり、会場中央にDJブースを設置して音楽を流したり、回を重ねる度に工夫を凝らしてきました。

Sympa!!!の活動を見て、「自分たちもやってみたい」と、団体を立ち上

げた人もいます。「活動を通して、同世代のみんなが新たな一歩を踏み出すきっかけになれば」と話す猪苗代さん。仙台のまちに表現の場と新たなつながりを生み出す若者たちの挑戦は、まだ始まったばかりです。



▲多彩な表現のアート作品



▲ハンドメイドのアクセサリ

Sympa!!!

Instagram▶





特集

協働による活動事例を紹介「ちまたのコラボ」

「行ってみたい！」と思える防災イベントで地域のつながりを育む

若林区土樋にあるラジオ3愛宕橋スタジオで、イベント「この街とオープン・デイ」が行われています。運営するのは、株式会社仙台シティエフエム「ラジオ3」（以下、ラジオ3）と、一般社団法人虹のさかなプロダクション（以下、虹のさかな）です。子どもや若者、外国人住民、障がい者など多様な人が集まるきっかけをつくり、災害時に支え合える地域を目指す取り組みをご紹介します。

地域にとって災害時も
頼れる存在でありたい

株式会社
仙台シティエフエム
「ラジオ3」

仙台市を拠点に放送するコミュニティFMラジオ局。地域に根差した番組を日常的に放送するほか、災害時には迅速な災害報道や、生活インフラ情報など、市民に寄り添った情報を発信しています。



主任・ラジオパーソナリティ
さとう まいか
佐藤 舞花さん

文化芸術で人をつなぎたい

一般社団法人
虹のさかなプロダクション

音楽の力が多様な場で発揮される社会を目指し、医療・福祉施設などと連携したコンサートの企画・運営ほか、プロの演奏家と音楽を活かせる現場とのコーディネートを行っています。

代表理事・ピアニスト
おいかわ くみこ
及川 久美子さん

「この街とオープン・デイ」の様子



楽器作り体験の様子



ラジオパーソナリティが入り口で参加者を迎えます



防災について学ぶ科学実験

「この街とオープン・デイ」は、防災を学べる体験プログラムや、手作り楽器体験、お菓子のプレゼント、多国籍料理のキッチンカー出店など様々な企画が行われるイベントです。2024年にラジオ3が前身となるイベントをスタートさせ、2026年から年に複数回実施しています。目的は、遊びに来るだけで防災を身近に感じられ、同じまちに暮らす人との接点が生まれる場をつくることです。2026年6月19日の開催時には、放課後の子どもたちや保護者など、のべ100人が来場。顔を合わせた周辺の住民同士が、「〇〇君も来てたんだね!」「今日はお姉ちゃん一緒じゃないの?」などと声を掛け合いながらイベントを楽しみました。虹のさかなによる手作り楽器体験も好評で、初めて会った子どもや保護者たちが、楽器作りをきっかけに言葉を交わしました。会場のあちこちで生まれた小さな関わりが、互いを知るきっかけとなり、ゆるやかなつながりを育んでいます。

1 ねらい

地域とつながり続ける先に 目指したもの

ラジオ3は、災害時にも必要な情報を地域へ届けることを使命としています。「いざという時、地域の人に思い出してもらえる存在でありたい」と、日ごろから地域の人との関わりを大切にしてきました。スタジオを地域に開く「この街とオープン・デイ」も、その一つです。より多くの人が気軽に「行ってみたい」と思える場にするため、防災だけでなく文化芸術の要素を取り入れようと模索し、虹のさかなに協働を打診しました。一方、虹のさかなが目指しているのは、音楽の力を社会課題の解決に活かすことです。及川さんは、「音楽があると、誰でもふらっと立ち寄りやすい雰囲気になるんです。そんな音楽の力を、地域の皆さんのために活かせると思うと、ワクワクしました」と、振り返ります。



ラジオ3が地域と築いた
信頼があってこそ、
地域の皆さんの近くで
活動を広げられました。



2 ポイント

より多様な人に 開かれたイベントへ



イベントでは年齢や障がいの有無、言葉の違いを越えて、誰もが楽しめるよう両方で工夫を凝らしました。ラジオ3は、これまで培ってきた地域の人とのつながりを活かしながら、防災プログラムの講師やキッチンカーの手配など、イベント全体のコーディネートを担当。虹のさかなは、うちわで作るタンバリンや、紙コップで作る太鼓などの楽器作りを企画しました。外国人留学生が夢中になって楽器を作る姿や、「前回楽しかったから」と友達を連れて再び参加する子どもの姿も見られ、継続開催ならではのつながりが生まれています。分担して企画を進める中で佐藤さんは、「災害時に支援から取り残されやすい障がい者や外国人など、多様な人が参加しやすい場をこれまで以上に意識するようになった」と話します。



▲ビーズが入った食品トレーを
貼り付けた「うちわタンバリン」



3 これから

一歩ずつ地域のつながりを育む

イベントで交わされた会話や小さな関わりが、すぐに災害時の助け合いになるわけではありません。しかし、顔を合わせ、言葉を交わし、「また会ったね」と声を掛け合える関係は、地域で暮らす安心感を少しずつ育み、有事の支え合いの土台になっていきます。



株式会社仙台シティエフエム
「ラジオ3」



▲HP

一般社団法人
虹のさかなプロダクション



▲HP